

空軍の通訳を担うLEAPボランティア *LEAP volunteers translate Air Force intent*

August 15, 2023

By Senior Airman Brooklyn Golightly
374th Airlift Wing Public Affairs

日米の文化交流を支える柱となる前から、リュウ・ヤマカワ上級空兵は自身の音楽を通じて異なる言語を話す人々と心を通わせた。

太平洋空軍音楽隊のギタリストであるヤマカワ上級空兵は、現在パシフィック・トレンズの運用代表として、管轄地域内での公演の予定を立て、また国内のコンサートを調整する渉外担当者のサポートを行っている。

それらのコンサートは、横田基地を拠点に活動する太平洋空軍音楽隊の演奏を日米のコミュニティに披露し、日米両国の永続的なパートナーシップを強化する目的で行われている。

ヤマカワ上級空兵は、「空軍に入隊した時、日本語を活かして現役兵士の役に立ちたいと思った。リサーチを始め、音楽隊が日本の楽団コーディネーターと調整する際に通訳し、語学要員空兵プログラム (LEAP)に参加する準備をしてきた」と述べた。

LEAPは、あらゆる専門分野の将校や下士官の空兵を対象としたボランティア・プログラムである。このプログラムは、米空軍文化・言語センターが運営するもので、横田支部には現在77名の兵員が登録しており、申請中も数名いる。

ヤマカワ上級空兵は、「私は日本で生まれた」と話し、「シングルマザーの母は自分がアメリカに移住するとは思ってもいなかった。母は私たちが18歳になるまで日本語だけで話し、日本の学校には高校まで通った」と生い立ちを語った。

母親はその後、現役水兵と結婚し、すぐにワシントン州シアトルへの赴任が決まり、一家は初めてアメリカに渡った。

「ギターは15歳から始めた。つらい時期もあったが、英語を話せるかどうかなんて気にしない本当に良い友達ができただけ一緒に演奏したいと思ってくれた」とヤマカワ上級空兵は話す。

ヤマカワ上級空兵は高校時代、仲間と演奏する傍ら英語の勉強を始めた。音楽と英語を共に学び続け、その音楽と日本語スキルを活かして、父親のような現役兵士が日本人と交流する際の手助けをしたいと強く思うようになった。

妻と出会ったヤマカワ上級空兵は、家族を養うために米空軍に入隊することを決めた。空軍音楽隊のギター担当となり、日本をルーツに持つ自身の特性をもっと生かしたいと考えた。

ヤマカワ上級空兵は、「妻は日本人で、娘が二人いる。家では皆んな日本語で話す。日本での生活が大好きだし、日本人とのコミュニケーションは心が落ち着く」と話す。

LEAPに参加するには言語を追求する情熱が大事だとヤマカワ上級空兵は話す。また、LEAPのメンバーによれば、専門用語や文化的なニュアンスの知識を学び、語学力を向上させる意欲は効果的なコミュニケーションに不可欠だという。

LEAPプログラムは、米空軍の文化的多様性の豊かさと、各専門分野の内情を熟知している選抜された空兵たちの貢献を活かす取り組みである。また、米国のパートナーや同盟国との関係を築き、維持する上でこれらの語学要員の必要性を認識し、推進するものである。

「LEAP専門官の一人として、パートナー国とより緊密な関係を築くためには、相手の言語を話さなくてはならないと思っている。そして常に相手の文化に関心を持ち、敬意を表す方法を学ばなくてはならない」と話した。

ヤマカワ上級空兵はこのほど、米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン23」への参加を命ぜられ、陸上自衛隊と米海兵隊の日英通訳者として語学強化訓練(LITE)に参加した。

LITEでは、隊員たちは異文化が入り混じる中で任務に当たる。上級LITEは、LEAP参加者の語学力を実践的な環境で強化・維持する。その中でパートナー軍と共に勉強したり、機動訓練チームや異文化会議で異文化コミュニケーションを促す役目を担う。



「レゾリュート・ドラゴン23」で陸上自衛隊と米海兵隊の演習に参加したヤマカワ上級空兵は、これまでの経験で最も大変な任務の一つだったと振り返った。

「レゾリュート・ドラゴン」は、第3海兵遠征軍が毎年参加している演習で、複数の領域にわたる統合指揮統制、照準、統合兵装、機動などの実働演習を通じて、日米同盟の防衛力を強化することを目的としている。

日本語も英語も堪能なヤマカワ上級空兵だが、演習で覚えなくてはならないことが沢山あった。二国間のコミュニケーションを円滑にするため、米海兵隊と陸上自衛隊の隊員から日々のやりとりから専門的な略語まで、幅広い用語を学んだ。

彼の任務は大変だったものの、またこうした機会に参加できることを楽しみにしているという。

ヤマカワ上級空兵は、「迅速に通訳しなくてはならず大変だったが、意味を理解できる知識を持った相手との仕事だったので、うまく疎通が図れて良かった」更に続けて「演習するだけでなく、日米両部隊の関係を築き、強化することができた」と述べた。

LEAP専門官になるには、空軍戦略言語リストに定められる外国語の語学力を証明し、部隊指揮官の推薦を受け、選考委員会の選考を受ける必要がある。

LEAPの選考にあたっては、学歴に加え、職務成績、現在の語学力、より高いレベルの語学力を習得する力、米空軍の語学要件が考慮される。

太平洋空軍音楽隊だけでも、横田基地のLEAP専門官チームの3人が在籍しており、より強力な多言語に対応できる空軍を創造するため、他のメンバーにもプログラムへの参加を勧めている。

太平洋空軍音楽隊上級下士官リーダーのジェイソン・フォスター上級曹長は、「空軍でこのLEAP専門官の需要が高まっているのは周知のとおりだ。戦力拡大のため、専門分野に新たなポジションを設け、要員を配置できるのは常に良いことだと思う」と述べた。

米空軍のLEAP専門官のスキルは、相互運用、敵理解、パートナーシップの強化を介して航空・宇宙戦力を支える。

ヤマカワ上級空兵は、「コミュニケーションが図れなければ、パートナーシップは築けない」と結んだ。